

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉に着目して、正確に読んだり、聞いたりする力 ・目的意識をもって、話したり書いたりする力 ・正しい字形や筆順で漢字を書く力 	<p>本校における全国学力・学習状況調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前後の文に合わせて漢字を文中で正しく使う 平均正答率 60.0% ・時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える 平均正答率 75.6% ・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする 平均正答率 51.1% <p>以上の結果を踏まえ、以下3つの力が課題と考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の漢字を正しく書く ・言葉に着目して読む ・相手に伝わるように自分の考えを書く 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の範読や、本の読み聞かせなどを聞いたり、読書したりする経験を増やす。 ・基本の文型や話型を示し、「始め・中・終わり」を意識しながら、自分の考えが伝わる文を書かせるようにする。 ・説明文や物語文を要約する、あらすじをとらえたりする、日常的に作文や日記を書いたりするなど、要点を押さえられるような活動を取り入れる。 ・書写学習を中心に、相手意識をもたせて字形を整えて書くことを、新出漢字の指導や書字活動の際にも意識させるよう指導する。 ・定期的に漢字テストを行ったり、文章を書く際に既習の漢字を用いることを指導したりして、定着を図る。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から地図、統計などの資料を読み取ったことや考えたことをまとめる力 ・社会の学習と日常生活とを結びつけて考える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図の見方や資料の読み取りなどを苦手とする傾向にあり、それらを基に思考する際につまずきが見られる。 ・学習内容を日常生活に結び付けて考えることを苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を一人一人が自分の言葉でまとめて、協働的な学びにつなげる場面を授業内で増やす。 ・普段の生活の中で、学習内容と関連する場面が出てきた際には都度声かけをする。 ・教師が、毎時間ごとの主となる資料を厳選し、読み方を丁寧に教え、資料の読み取り能力を高めていくよう指導する。

令和7年度 授業改善推進プラン

算数	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的に考える資質、能力 ・自力で問題解決できる能力 ・協働して問題解決できる能力 	<div> 本校における全国学力・学習 状況調査 平均正答率 61% </div> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査より、 領域別では「図形」、観点別では 「思考・判断・表現」、形式別では 「記述式」の平均正答率が低い。 ・伴って変わる二つの数量の関 係に着目し、問題を解決するた めに必要な数量を見出し、知 りたい数量の大きさの求め方 を式や言葉を用いて記述でき る 平均正答率 44.4% ・目的に応じて適切なグラフを 選択、数量の変化を判断し、 その理由を言葉や数を用いて 記述できる 平均正答率 17.8% ・コンパスを用いて平行四辺 形を作図する 平均正答率 40.0% ・「数量に着目し、大きさの 求め方を正確に式で表したり、 言葉で記述したりする力」「 グラフを正確に読み取る力」 「図形の性質を基に、正確に 作図する力」が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数量に着目して丁寧に読み 取るために、文章問題で問わ れていることやグラフなどを 言葉や図などを用いて説明 できるように、思考する時間 を設定する。 ・図形の性質を確認、またコ ンパスや三角定規などを正し く使いながら、作図する練習 をする。 ・自力解決の時間にて、個別 指導の時間を十分に確保し、 自力で解決する手立てを示し たり、協働的な学びに結び 付けたりして、考えを深め たり、記述式で表現したりす ることができるようにする。 ・習熟度別のクラスの実態に 合わせて、数直線や図、絵を 用いたり、問題文に下線を引 いて立式するために必要な 情報を掲示したりして、視 覚的に自力で考えることが できるように、問題提示の 仕方を工夫する。基礎的な 学習内容を定着できるように、 復習したり、反復練習したり する機会を設ける。

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項や経験を根拠にしなから学習問題に対する仮説を立てる力 ・実験の方法や条件を選択し、適切に情報を整理することができる力 ・様々な事象について追及する中で、差異点や共通点を基に、問題を見いだす力 	<p>本校における全国学力・学習状況調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠をもとに、理由を予想し、表現する力。 <p>平均正答率 55.6%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結果をもとに、結論を導いた理由を読み解く力。 <p>平均正答率 53.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現する力。 <p>平均正答率 40.0%</p> <p>以上のことから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験結果から考察し、学習課題に対しての結論を導き出す力に課題が見られる。 ・学習課題を整理し、適切な実験方法や条件を選択し、表現する力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入の際に、前学年までの学習内容や生活経験を想起させてから、仮説を考える時間を設ける。 ・どのような実験が必要か手順や必要な道具などを考える。条件に着目し、条件を整理することで、課題に正対した実験ができることを考える。 ・予想で「自分の考えの根拠」を考えたり、結果から「何が言えるのか」を考察したりする時間を設定する。 ・本単元で学習したことがこれからの生活でどのように生かせるか、生活にどう関係しているかを考える時間を設ける。

生活科	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・季節に見られる自然のものや行事・変化について意図的・計画的に気付く力 ・学校、家庭及び地域の生活を通して、他者と自分との関わりに気づき、よりよく生活しようとする力 ・身の回りと自分自身との関わりについて考え、表現する力 ・身の回りの事柄に興味・関心を持ち、すすんで関わろうとする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節や成長の違いに気付けない児童がいる。 ・気付いたことを絵や文章にして表現することが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の行事や自然、変化に自然と気付けるよう、それぞれの季節をカードにまとめる活動を取り入れる。 ・絵や文などで表現することが難しい児童には、教師が例示したり、完成した児童のものを紹介するなどして、書けるように支援する。 ・自分の考えを持ち、表現しやすくするため、タブレット端末を活用する。

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を感じ取り、自分なりの表現を工夫しようとする力 ・他者や音楽と関わり合いながら、互いの表現を高め合う力 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項や学びのつながりを意識して、自分なりの表現に生かす姿に課題が見られる。 ・友達と主体的に関わり合いながら、表現を高めたり考えを深めたりする場面が十分に見られない。 ・感じ取ったことを、言葉や動き、音などで工夫して表す力をさらに育てたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱・器楽・音楽づくりの場面で、自分なりの表現の工夫を引き出すような課題や見通しを大切に ・表現活動では、個別支援を行いつつ、ペアやグループでの「教え合い」や「伝え合い」を活性化 ・鑑賞では、「聞く観点」や「感じたこと」を言葉や動きで共有する活動を重視する。 ・ワークシートや言語活動（話し合い・記述）を多く取り入れ、学びの可視化と振り返りを促進。 ・既習事項を活用して音楽づくりや演奏・歌唱に生かす活動を計画的に位置付ける。 ・ICTを活用して、録音・録画による振り返りや、仲間の表現を比較・共有する場面を設定する。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりのものの見方で試行錯誤しながら思いや考えを表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動や他者との関わり合いを通して表現を広げたり深めたりすることが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自ら試し・気付く余裕のある活動を保証する。 ・表現と鑑賞が往還する授業展開を工夫する。 ・ICTを活用した振り返りと共有の場面を設定する。

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の衣食住について基礎的な知識を理解し、実行する力 ・自分の生活と関連付けて、生活をより良くするための方法を考える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・身に付けた技能や知識を、生活や家庭で生かす力が発揮されるとよい。 ・裁縫について、一部の児童は課題が難しいと感じると諦めてしまい、友達や教員に代わりにやらせてもらう様子がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・裁縫や調理などの実践を通して、基本的な知識や技能を身に付けられるように実習を行う。 ・家庭での朝食作りなど、身に付けた力を家庭で生かせるような課題を設定する。 ・必要に応じて保護者の協力を募るなど、支援が十分な状態で実習の授業を行う。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・各種運動の特性を理解し、基本的な動きや技能を身に付ける力 ・運動についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力 ・運動に親しみ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を見出し、友達と協力しながら課題解決に向かう力が十分に育っていない。 ・自分の能力に合う練習方法を選択し、技能を高めるために粘り強く取り組む力に課題が見られる。 ・体全体を使った多様な動きの運動やボールを投げる運動に課題が見られる。 ・勝敗を受け入れることが難しく、チームプレーの良さを感じることができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が運動の必要感を感じられるような学習環境を整えるとともに、多様な方法で学びの共有が図れるようにする。 ・基本的な技能を身に付けるために、iPadを活用して自分の動きを撮影し、課題を見付けたり、習得をするためにどうすればよいか考えたりする時間を設ける。 ・次の学習に繋げるために、ICTを活用して学習カードを保管することで、自己を振り返り、自分の成長を体感できるようにする。 ・学習を進める上でのルールや配慮事項を確認するとともに、児童が自分たちの実態に合ったルールを作っていけるように授業を構成する。

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く、話す(やり取り、発表)資質・能力 ・英語を使う実践力と、国際コミュニケーションの基礎的な力 ・外国の文化と日本の文化を比較し、それぞれの特徴を理解した上で尊重する態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した話型や英文を十分に活用できていない。 ・英語に自信がなく、活動に消極的になってしまう児童がいる。 ・日本の文化については理解しているが、海外の文化についてはあまり知らない。 ・学習した話型や英文を使って、進んでコミュニケーションをとる力が十分ではない。 ・授業で学習した話型の意味を理解して適切に使えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な活動やゲームなどのアクティビティを取り入れ、すすんで学習に取り組むようにする。 ・簡単な語句を聞き取れるように、身の回りの物を題材として取り扱う。 ・活動内容の中で自然に英単語や簡単な文型の発話回数を増やしたり、友達と交流したりする時間を設定して、自信をもたせる。意味が分かるように、表情や身振り、イラストや写真などを手がかりになるように指導する。また、Webコンテンツも活用する。 ・授業の中で、外国の文化を知る機会を増やしていく。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深め、道徳的な判断力、実践意欲 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいに迫っていることが分かるような発言や自己の振り返りができていない。 ・多面的、多角的な見方ができる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値についての理解を深めるために、教材理解の時間を設け、ねらいが達成できるよう学習課題(導入や教材提示の工夫、発問の精選)について考えさせる。 ・多面的・多角的に考えられるように話し合い活動を取り入れていく。 ・自己を見つめる時間を設けることで、自己の生き方について考えを深められるようにする。自分の考えが思い浮かばない児童については、生活場面を思い出させるような声かけをする。

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・すすんでクラスのために、学級での話し合いや係活動、当番活動に参加する態度 ・様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、集団や社会における生活及び人間関係をよりよくしようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者との合意形成の場面において課題のある児童がいる。 ・クラスのために主体的に活動をするという意識が低く、自分の楽しさを係活動においても優先してしまう児童が多い。 ・課題について話し合えるが、それを実践する力が乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会を定期的に行い、根拠に基づいて意見を述べるように指導する。その際、児童の発言を肯定的に認めることや友達の考えを聞いて自分の考えを広げられるように意識させる。 ・係や当番活動では、活動の意義について確認し、自分たちの活動がどのようにクラスのためになっているかを確認する時間を設ける。また活動の振り返りを行う時間を意図的に設けることで継続的に活動に取り組めるようにしていく。 ・課題について常に確認できる環境を設け、自分たちがどの程度達成できているのかを振り返ることができるようにする。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が興味をもった課題に対して、進んで課題設定を行い、課題解決に向かう態度・意欲 ・自ら課題を見付け、情報収集をし、集めた情報を整理したり分析したりして、まとめる力 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を自分事ととらえて課題設定をし、課題に見合った情報を集めて処理する力が弱い。 ・課題解決の見通しをもてない児童が多い。 ・資料を正確に読み取る力が弱い。 ・集めた情報について、十分に内容を理解しないまま発表資料にまとめている様子がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画や本などの資料を活用して、課題について具体的なイメージをもたせる。 ・学習の見通しをもって取り組めるように学習計画を作成する。 ・情報の分析について、個人での確認とともに、友達との協働的な学びを通して分析するよう声を掛ける。 ・課題解決に向けて、正確な情報収集ができるように、資料の読み取り方を指導する。 ・発表の際に児童が自分の言葉で説明できるように、情報収集の段階から意識して調べるよう指導する。